

## 牡蠣事業者へのヒアリング調査

### 【調査目的】

国際的に問題となっている海洋プラスチックゴミについて、広島湾でも問題となっている牡蠣養殖業に由来するプラスチックゴミの現状を把握すること

課題：①広島湾ではカキ養殖がプラスチックゴミを排出しているが、現状把握はどこまでできているのか

関係者の生の声を受け止める機会が少ない  
個別の現場での対応を把握する機会が少ない

②プラスチックゴミを減らすための対策はしているのか？

していても減らないのはなぜか？

資金不足？ 情報不足？ ゴミ拾いによる限界？

ヒヤリングの目的：カキ養殖業者への直接ヒヤリングを通し、対策などの現状の把握と、当事者とされている養殖業者から声を聞き、有効的な対策やアイデアを探る機会とする

ヒヤリングの内容：現状を把握する

- ・カキ養殖
  - ・現状
  - ・思い、考え
- ・プラスチックゴミ
  - ・現在行っている対策
  - ・気持ち、考え
  - ・要望、希望

ヒヤリングの効果：まとめたものを発信 ⇒多くの人に現状を知ってもらう

カキ養殖者への啓発  
対策やアイデアの参考

## ヒヤリング 1

日時：2020年6月12日（金）14：00～15：00

対象者：大越英樹さん（49歳）

所属：マルイチ水産 社長

後藤、胡子和、牛尾

### 牡蠣養殖業について

祖父の代から続いている（3代目）。18歳で仕事を手伝い始め、30歳前から社長として後を継いだ。

自分の努力次第で結果がでる仕事にやりがいを感じている。

### カキ養殖の歴史

昭和30年代に江波の業者が牡蠣養殖をしており、その業務を受けたのが始まり。

最初は地蒔きだったが、筏で作るようになった。

台風の影響が少ないということで、漁場が良いと言われている。

### 品質管理

設備を導入。養殖業者の10%くらいしか持っていないと思う。高価

マイクロバブル、紫外線を使う

生食用の規格を保つ努力をしている。

牡蠣を呼吸させて中から殺菌しないといけない。

酸素濃度を高めて、活性させて糞を出すことで、殺菌する。20時間かけて減菌

毎週検査をしている（公的な機関）

フジ（グラン）が直で取引をしているが、安全管理を徹底しているところに価値を感じてくれている。

自然のモノなので、いくら気を使っても何があるか分からない。

事故率を下げるためにも、できる限りの努力はしている

### 牡蠣へのこだわり

季節による違いがある。

味にもこだわりがある。仲買にまとめて売るよりも、自分の牡蠣は差別化してほしい

### 乾燥牡蠣とオイスターエキス

江田島市内の業者が乾燥牡蠣にして香港に輸出している。

乾燥牡蠣の日本で唯一（？）

春先の牡蠣を乾燥させるようになって、年中牡蠣を使用することができる。

大きい牡蠣は人気がある。

オイスターエキスも作る。食品加工（調味料）などに使える。

外国人

外国人実習生はインドネシア7人。

宗教的なこともあり、穏やかな性格で生活も安定しているので、助かっている。

環境に対して

最近は矢面の立たされているが、努力や工夫もしている。

発砲スチロールは5000円。4～5年耐久。カバー1000円手間もかかる

硬質プラフロートは20000円くらいする。

行政に初期投資の負担を少しでも減らすようお願いしているが、ゴミ回収の方に力を注いでいる。

漁場を守るためにも、自分たちも大切なことだと思っている。ゴミが沈むと影響がある。

昔は竹を使っていたが、昭和50代ころからプラチックに変わった。リサイクルもコストはかかる。

パイプの代案として、竹を使ったり、せいぶんかい 実験中。1～2年前から。

岡山や兵庫ではロープを使っている。大量生産できない。小量を高値で売っている。

環境面は見えない部分の努力が必要。

環境面と衛生面の両立を模索している。

## ヒヤリング 2

日時：2020年6月12日（金）15：30～16：20

対象者：大越真也さん（41歳？）

所属：マルキョウ水産 社長

後藤、胡子和、牛尾

### 牡蠣養殖業について

21歳の時、従業員が辞めたので、学校をやめて帰ってきた。  
仕事としては朝早いし、日曜日くらい休みたいという人も多い  
子どもに後を継がせたいとは思わない。  
自然相手なので難しいことも多い

### 美能牡蠣

大なさびの牡蠣は日本一美味しいと思う。  
潮が早い。深いのも要因かと。  
年配の人は何に対しても消極的だが、同世代は積極的にPRしようという人がいる。

### 水販協の会長として

今回2年延長した（他にやる人がいない）  
直売の場所などをもっと増やしてほしい（新鮮市場のような）  
水販協の会長を引き受けている。江田島市の牡蠣等水産物をPRして販売を促進することに尽力している。  
コロナの影響で、広島のマルシェへの出品の機会を逸してしまったが、引き続き機会があれば出店したい。

### 海的环境

コストの面がかかるのが大変  
プラスチックを竹にするなど、質には特に影響しないのでできるなら変えていきたい  
フロートもプラスチックにしたいが、初期投資が高すぎてなかなか手が回らない  
掃除は単独でも、県単位も漁協としてもやっている

### ヒヤリング 3

日時：2020年6月15日（月）13：00～14：00

対象者：下前清弘さん（53歳）

所属：三高漁協組合長

後藤、胡子和、牛尾

牡蠣養殖業について

祖父の代から3代目。父親は漁師だったが、途中から牡蠣養殖に転職

高校を卒業して家業を継ぐ

娘が2人いる。一人は後を継ぐ予定

三高、大黒神は種を採るのに一番良い漁場

身入れは広島湾の方（川の近く）に行く

豊かな海に戻したい（きれいな海だと生産量が増えない）

事業としての難しさ・・・牡蠣の単価は上がらないが、資材は高騰している（針金、竹など）

2年前の災害時は生産量が増えた

職員は毎日浜を掃除している。

三高小学校とは年に1回は職場見学などを受け入れている。

環境に対して

1～2年前からどの業者も回収を徹底している。

九州などでは、広島牡蠣は買わないような声もある。

三高漁協は牡蠣養殖をメインにしている業者も多く、保管場所などの条件にも合うので、実験など試している。

環境問題に取り組み、牡蠣のイメージも大切にしたい。

実験1

昨年からプラスチックを竹に戻す実験をしている

筆を作る業者（楠部）が試作を作っている

7月に種を付けるホタテを通すのを2年分作って1年間置いておくようにしている。

竹を使ったものを実験的に放置しているが、海につけてないのにひび割れているものもある（耐久性が問題か）改良が必要。

実験2

廃フロート

減容機（500万円くらい）江田島市に1台（環境センター）あるが、借りるのに制限が多

い。

昨年実験で廃フロードにしたが、業者が引き取りに来なくて長期間放置しており、消防からも注意され、やっと取りにきてもらった。ペレットなどにする予定。

その業者は今年はどうなるのか未定。

減容機やペレットにする機械が江田島市があれば（運搬費もかかるので）。

助成金などの活用も考えられるが、ペレットにするのでは対象外になる。

## ヒヤリング 4

日時：2020年6月15日（月） 15：30～16：30

対象者：久保河内慶さん（41歳）

所属：マルヒサ水産 社長

後藤、胡子和、

### 牡蠣養殖業について

高校を卒業して家業を継ぐ。社長には

子ども4人（小学生以下）、後を継ぐかどうかは分からない。

20年後どうなるのかまったく分からない

業者が全盛期より半分に減っているが、その空いた筏で他の業者が生産しているので、全体の量は変わっていないが、今後さらに半分になったら、生産量はどうなるか分からない。

牡蠣の値段は30年変わらないが、資材が高騰している

### 牡蠣養殖へのこだわり

採苗について試験場で研究を頼んでいる（6年くらい）

年によって採苗できる量が違うのに困っていた（自然のものなので）

常に1、2年ものを作っていて、量が少ない年は1年先のものを半分使って補っているが、収穫としては減る。

研究の成果が出てきて、安定して量が取れるようになってきた。

### 牡蠣について

ブランドイメージを上げたい。

売る方も作る方も甘えている。

消費者が全て（値段を決めている）。

生食用もあまり価値がない

見た目がきれいなものが高値がつく（味よりも）

何か付加価値を付けないといけない（広島牡蠣、日本の牡蠣という視野でみる）

広島牡蠣は大量生産できるのは一つの特徴（量ないと商売にならない）

### 美能牡蠣について

採苗から実入りまで、一貫してできる特別な漁場。広島牡蠣はすべてここで作っていると言える。

海がきれい。潮の流れが速く牡蠣養殖に適している。

美能牡蠣だけ目立つより、広島牡蠣全体の底上げをしたい

外国人労働者

日本人の働き手がないので仕方ない

日本人なら車にも船にも乗れる

経営者としてはコストがかかる

3年で帰国するので、教えても教え甲斐がない

他の牡蠣業者との連携について

瀬戸内の若手牡蠣業者との交流もある（60人くらい）

環境に対して

いろいろな実験をしたり、考えたりしている。

100%環境に良いものに変えていくのは難しい。段階を踏んでいきたい

コストが問題

プラスチックの代替品の実験をする

トウモロコシを原料として作った（市役所から紹介された）

竹を材料としたもの（昨年から実験を始めた）県漁連から

コストがかかる → 1年使ってみて再利用できるんじゃないかと思っているところ

廃フロート

牡蠣いかだのものと思われがちだが、栈橋などについていたものなどもある。

（正直）仕方ないところもあるが、イメージも大切



令和2年6月吉日

江田島市の各漁業協同組合 御中

一般社団法人フウド  
代表理事 後藤峻

## 事業へのご協力をお願い

謹啓 平素より大変お世話になっております。

この度、当法人では公益財団法人日本財団の「海と日本PROJECT2020」の助成事業「江田島の海と地域を繋ぐ体験イベント」を開催することとなりました。

つきましては、本事業における江田島市の牡蠣業者へのヒヤリング調査等について、以下のご協力を賜りたいと存じます。

大変お手数をおかけしますが、ご検討の程よろしくお願いいたします。

敬具

記

### 【ご依頼事項】

- ・牡蠣業者へのヒヤリング調査（取材）実施のご協力
- ・フィッシャーマンズ・マーケット開催のご協力

「江田島の海と地域を繋ぐ体験イベント」  
ヒヤリングおよびイベントの概要

私たちの住む江田島市は海に囲まれ、豊かな自然環境に恵まれた生活をしています。海を大切にし環境を守ることは、一人一人の意識と行動によるものが大きく、大人から次世代を担う子どもたちにまで育んでもらいたい大切なことです。

このたび牡蠣養殖業者の皆様がどのような想いで活動し、海的环境に関するや、アイデアや希望などをお聞きすることを通して、現状を把握したいと思います。また、活動の一環として漁業をより身近なものに感じるイベントを企画しており、それらの活動に参加することで江田島市民が海への関心を高め、一人一人の行動の変容へとつながっていくことを期待しています。

1. ヒヤリング調査

- 【 調査目的 】 江田島市の漁業と海の実態把握
- 【対象者】 江田島市内の牡蠣養殖業者（5者程度）
- 【 調査手法 】 ヒヤリング調査（約1時間）
- 【 実査期間 】 6月～7月

2. フィッシャーメンズ・マーケット

- 【目的】 江田島市民と漁業者の交流を深め、漁業や海の実態把握への関心を高める
- 【開催時期】 11月～12月
- 【場所】 江田島市内の漁港を想定
- 【内容】 遊漁体験、鮮魚販売、飲食出店、ステージ演出

※コロナウイルスの状況に応じて実施内容が変わる可能性があります。